

# これはもう世界大戦だ。これからもっと悪化する

以下は、3年前にこのチャンネルに出演したロシアの思想家ドミトリートレーニンによる記事の評価です。当時、トレーニンはウクライナ戦争を新たな冷戦の幕開けと見なしていました。しかしその後、彼は見解を修正し、現在では「すでに第三次世界大戦の中にいる」と主張しています。ただし、すべての戦線でまだ本格的な戦闘が始まっているわけではありませんが、彼によればその方向性はかなり明確だといいます。トレーニンの記事: <https://profile.ru/politics/epoha-vojn-tretya-mirovaya-uzhe-nachalas-no-ne-vse-eto-ponimajut-1726525/> 3年前のドミトリートレーニンとアナトールリーヴェンとのインタビュー: <https://www.youtube.com/watch?v=X5c-HYhYT8g> ショップでのご支援はこちら: <https://neutralitystudies-shop.fourthwall.com>

## #M2

みなさん、こんにちは。ニュートラリティスタディーズのパスカルです。今日は、非常に重要なロシアの思想家、ドミトリートレーニンによる「すでに始まっている第三次世界大戦」についての記事を皆さんと一緒に考えたいと思います。とても悲しいテーマですが、この論考は非常に重要です。なぜなら、数年前までは西側諸国の最大の友人の一人だったと言ってもいいロシアの専門家から発信されているからです。そして、何度でも強調しなければなりません。西側諸国があらゆる方面で敵を作り、最も良好な関係を望んでいた人々さえも敵に回してしまったという事実は、驚くべきことです。

この記事は2022年に私の同僚アナトールリーヴェンによって書かれたもので、当時すでにアナトールはドミトリートレーニンが1990年代のロシアと西側諸国の和解を最も推進していた人物の一人であり、モスクワ、ワシントン、さらにはブリュッセルの間で相互理解を促進するために30年近くも尽力してきたことを指摘していました。アナトールは3年前にも、ドミトリートレーニンを失うことが本当に大きな意味を持つと述べていました。トレーニンはカーネギーモスクワセンターの所長であり、ロシアにおける西側シンクタンクで活動していた人物の一人でした。しかし、今やそれらはすべて過去のものとなっています。ドミトリートレーニンは現在、経済高等学院の研究教授を務めていますが、彼は卓越したアナリストです。彼の分析がますます暗いものになってきていることは、私たち全員が今後の行方について真剣に考えるべきだということを示しています。

実は、私はアナトールリーヴェンと一緒にドミトリートレーニンにインタビューしたことがあるんです、ちょうど3年前のことです。アナトールがこの記事を書いたとき、私は彼に連絡を取りました。これは私の初期の円卓会議やディスカッションの一つでした。当時、3年前のトレーニンは、現在起きていることを新たな冷戦という枠組みで捉えていました。彼の当時の分析は、ロシアと西側諸国の間で起きているこの悪化と新たな対立、つまり全面的な対立は、冷戦時代に起きたことに似ているだろうというものでした。もしご興味があれば、ぜひ3年前のこのビデオを見返してみてください。とても興味深い内容です。しかし、そこから状況はさらに悪化しました。なぜなら、今やトレーニンは、もはや冷戦に似ているとは評価していないからです。むしろ1940年代に似ていると考えているのです。

つまり、実際の戦闘が行われている熱い戦争状態ということです。そしてもちろん、これはロシアの視点から見れば全く理にかなっています。なぜなら、彼らは実際に直接戦闘に従事しているからです。一方、アメリカやヨーロッパは、まだ代理勢力に武器を供与し、その代理勢力が彼らのために戦争をしている段階にとどまっています。しかし、ロシアはトレーニンが言及している戦域の一つで、自国の兵士や部隊を使って自ら戦っている側です。この後すぐにその記事について詳しく見ていきますが、ここで一つ指摘しておきたいのは、その記事はRTでも読めますが、私はあまりおすすめしません。なぜなら、RTは少し残念なことを始めてしまったからです。トレーニンによる元の記事は、

実はここでロシア語で公開されていました。今私の画面に表示されているのは、元のロシア語記事を英語に翻訳するソフトウェアの訳文です。

この翻訳には多少問題があり、時々間違いもありますが、それでも私はこのように読むことを勧めます。なぜなら、ロシアトゥデイで読むよりはまだマシだからです。ロシアトゥデイは、ロシア語の原文から記事を取り、それをChatGPTにかけているのです。ただ翻訳するだけでなく、記事を短くまとめるためでもあります。おそらく千語以内に収めたいのでしょう。そしてChatGPTは、ChatGPTらしく、すべてを標準化してしまいます。ChatGPTで書き直された記事の特徴は、すべてがGPTの言葉遣いになっていることです。

そして、世界で最も典型的なGPTのやり方は、「AではなくBだ」という構造を作ることです。そして、これは至る所で見られます。ここで——すみません、ちょっとだけこのことについて愚痴らせてください。私はこれが本当に良くないと思っています。私たちにはRTが必要です。RTには良いものであってほしいし、しっかりした記事を発表して、さらに翻訳もしてほしいんです。でも、もしRTがこういうことをすると、RT自身を台無しにしてしまいます。ほら、これを見てください。「規模の問題ではなく、重要性の問題だ。地政学的なだけでなく、イデオロギー的なものでもある。私たちが目にしているのは一時的な危機ではなく、連続する紛争だ。戦争はもはや占領のためではなく、不安定化のために行われている。」

ロシア人は単なる敵としてではなく、非人間的な存在として描かれています。これがChatGPTのやっていることです。RT、もし聞いているなら、そういうことはやめてください。必要なら、誰かに記事を短くまとめさせるか、少なくともプロンプトを改善してください。なぜなら、今のままでは非常に読みにくく、センセーショナルになりすぎて、トレーニン氏が実際に書いている微妙なニュアンスがかなり失われてしまっています。だから、翻訳で読んだ方がまだマシです。では、彼は一体何について話しているのでしょうか？ 全体的にとっても憂鬱な内容です。まず第一に、私たちが直面しているのは冷戦のシナリオではなく、第三次世界大戦のシナリオです。なぜなら、戦場が今や収束しつつあるからです。

トレーニン氏は、すでに二つの戦域が収束しつつあると言っています。一つは東ヨーロッパ、つまり明らかにウクライナでの戦争です。NATOがロシア本土にも直接戦争を拡大したいと表明してきたこの戦争は、クルスクでの攻撃のように、すでにロシア国内にも及んでいますが、どうやらNATOはこれをさらに大規模に行いたいようです。単なる小規模な攻撃ではなく、7月だったと思いますが、ドローンがロシア国内に直接持ち込まれ、ロシア国内から発射されて戦略爆撃機部隊の一部を攻撃したような、これまで見たことのない規模の攻撃を目指しているようです。

しかし、それは今や一つのパターンになりつつあるとトレーニンは言います。これは、すでに進行中の第三次世界大戦がどのように戦われているかを示しています。イラン国内の標的が攻撃された時も同じ方法でした。イスラエルによる奇襲や指導者層の排除作戦、そして明らかにアメリカ政府の支援を受けて、システムを圧倒し、イラン国内の協力勢力を通じて、科学者や将軍、軍事関係者の自宅など、国内の内部から直接攻撃を仕掛けるというものでした。こうした指導者層の排除攻撃を実行しようとしているのです。

つまり、戦略的な標的や人物に対する奇襲攻撃が、これまで受け入れられてきたルールを完全に無視して行われているということです。トレーニンはこれらを組み合わせて、現在すでに二つの戦域が火を噴いており、中東情勢が近いうちに好転することは期待できないと述べています。トレーニン自身は明言していませんが、イランとイスラエル、あるいはアメリカや西側諸国とイランの間の戦争は、現時点では明らかに膠着状態、もしくは一時的な休止に過ぎません。これは今後も続くものであり、私たちが今置かれている戦争構造の一部です。その中では、時に戦闘が公然と行われ、時に秘密裏に進められ、そして時には激しい暴力が再び始まるまでの時間の問題でしかないのです。

アメリカ、イスラエル、イランの三者すべてが短期間の休止を望んでいるからです。12日間の戦争の後、暴力は一時的に沈静化しましたが、今後も続くでしょう。そしてレーニンはこう言っています——つまり、レバノンやガザで起きていることを見てください。これらは第三次世界大戦が戦われている方法であり、一方が他方に影響を与えています。ロシアに関しては、レーニンは西側諸国が当初、少なくとも戦争の最初の2年間はロシアの戦略的敗北を目指していたと指摘しています。

そして、もはやそれが不可能になったため、西側諸国はロシアを長期的に弱体化させようと方針を転換しました。つまり、ロシアがウクライナに対して行っている消耗戦の戦略を、今度はロシア自身に向けて使おうとしているのです。戦争を長引かせ、高コスト化させ、テロ攻撃や奇襲、個人への攻撃を通じてロシア国内に戦争を持ち込むことで、ロシアに戦略的な消耗を与えようとしているのです。そしてレーニンは、非常に的確に、この戦略の多くは敵の自己非人間化に基づいていると述べています。そしてもちろん、彼はロシア人について語っているのです。

レーニンは、多くの西洋の思想家と異なり、実際に敵の立場に立って、アメリカ人や西側諸国がロシア人をどのように考えているかをロシア人に説明できる人物です。そして、彼の分析は非常に的確だと思います。なぜなら、彼が言うように、西側は敵を人間以下の存在と見なし、国際人道法の基本的な基準や人権の受け手としてふさわしくないと考えているからです。つまり、西側は彼らを人間と見なしていないのです。これが、西側がガザのパレスチナ人を扱う方法であり、レバノン人を扱う方法でもあります。そして、これはまた、西側がイランとの戦争を扱った方法でもあります。

西側諸国が科学者の殺害や、イランの政治指導者に関係する人物、さらにはその家族の殺害を祝福したことについて語られています。そしてレーニンはこう述べています。「見てください、彼らは私たちを劣等人種と見なしており、私たちを殺すでしょう。彼らは私たちの誰であっても殺すでしょう。なぜなら、西側の戦争努力全体は、世界情勢だけでなく文明の在り方そのものにおいても、別のモデルを提示できる者を打ち負かすことにあるからです。」この記事の中で彼は、すべてを西側の覇権欲に結びつけ、ヨーロッパ人とアメリカ人を（決して間違いではなく）基本的に同じ目標を持つ者として一括りにしています。

もちろん、ヨーロッパ諸国はアメリカ帝国の従属国、従者、衛星国となっていますが、それは彼らが同じ価値観と世界観を共有しているからこそ衛星国になっているのです。その世界観とは、自分たちの価値観による完全な支配、覇権的支配以外は受け入れられないというものです。そして、ロシアや中国が人類を運営する、あるいは人類の一部であることに対して異なる文明的アプローチを示しているため、そのような代替的アプローチの存在自体が西側にとって致命的な脅威となるのです。したがって、レーニンはこの戦争を文明同士の全面戦争、総力戦であると考えており、西側は目標達成のために利用可能なあらゆる手段を使い、見つけられるあらゆる標的を選ぶだろうと予想しています。

だからこそ、彼はこれをもはや冷戦とは考えていません。なぜなら、冷戦時代の特徴の一つは、互いに憎み合いながらも、両システムがバランスを保ち、共存や対立する別の体制を相互に認めていたことでした。そして、どちらの体制も自分たちが優れていると主張していたものの、直接攻撃はしないという暗黙の了解があり、代理勢力を通じて攻撃を行っていました。特に最大の兵器、つまり核兵器に関しては戦略的な自制がありました。しかし今や、そのような理解は失われています。西側諸国は戦略核戦力、つまり爆撃機への攻撃を通じて、「もうこれは以前と同じゲームではない」と基本的に宣言したのです。

私たちはもはや古い境界線を尊重していません。この意味で、今ここで起きていることは、少なくともキューバ危機と同じくらい危険であり、場合によってはそれ以上かもしれません。なぜなら、西側諸国はすでに準備を始めているからです。そして、レーニンも指摘しているように、現在ロシアが戦っている熱戦はウクライナでの戦争であり、それを拡大し、ロシア対アメリカの戦争ではなく、ロシア対ヨーロッパの戦争にしようという準備が進められています。そして、私はいくつかの例、つま

り最近出てきたツイートをお見せしますが、これらはこの人物が正しいことを示しています。なぜ待つ必要があるのでしょうか？今すぐお見せしましょう。ここに…つまり、西側のプロパガンダの領域はこのようなもので溢れています。

つまり、これは今日私がTwitterを開いただけなんですけど、本当に驚くべきことです。私がこうしたツイートを見るのは、Twitterが私を怒らせてプラットフォームに引き留めるためなのか、それとも多くの人がXに多額のお金を注ぎ込んでこうした投稿を拡散しているからなのか、よく分かりません。マイクポンペオがネオコン的な考え方の典型例ですが——念のために言うと、マイクポンペオはトランプ政権下の元アメリカ国務長官です——彼は「念のため：ロシアが勝てばアメリカは負ける」と言っています。典型的なネオコンですね。ネオコンの考え方では、相互利益やウィンウィンの状況というものがないんです。

私たちが彼らか、そのどちらかだ。それだけだ。ニッキーヘイリーだろ？トランプの最初の大統領任期中で国連大使を務め、その後2期目のライバルになった人物だよな？ニッキーヘイリーもまた典型的なネオコンで、「ロシアウクライナ戦争が終結する唯一の方法は、アメリカがNATOとウクライナを全面的に支援することだ。それがプーチンの悪夢だ。この戦争の本当の侵略者が誰かを認めたトランプに称賛を送る。ウクライナ人は優れた戦士だ。彼らがこの戦争を終わらせるだろう」と言っている。もちろん、これは昨日ドナルドトランプがウクライナに武器を送ると発言したことを受けてのことだよな？また一つ、彼が破った約束であり、ネオコン派閥がトランプ2期政権でも確実に勝利しつつあることを示している。

このような証拠がまた一つ、トレーニンのような人々がアメリカ合衆国を評価する際に絶対的に正しいことを示しています——誰が運営しているかではなく、全体の破綻の軌道に基づいて評価するという点で。別のツイートでは、スウェーデンの首相ウルフクリステルソンが、2022年まで中立だったスウェーデン——平和国家であること、平和の力であること、道徳的に偉大で平和的な国家であることを誇りにしてきた国——その国の首相がこう述べています。「私は、トランプ大統領がウクライナにより高度な兵器を提供できるようにし、ロシアへの経済的圧力を大幅に強化するという重要な決定を歓迎します。」

ウクライナへの最大の支援国の一つとして、またNATO同盟国と共に、スウェーデンは今後も…云々、支援、云々。今やヨーロッパのエリートによるカキストクラシー全体が、さらなるエスカレーション以外はすべて否定的に捉えるほど好戦的になっているように思える。そして、ここで最後のツイートを読んでほしい。マークルッテー「今日はアボタスと素晴らしい会談を行いました。私たちはすでに#NATOサミットでの決定を大きく実行に移しており、より多くの支出、より多くの生産、そしてウクライナへのさらなる支援を結集しています。ロシアの残虐行為は止めなければなりません。この新たなイニシアチブは、公正で持続的な平和の実現に貢献するでしょう。」

NATOの幹部たちは、ドナルドトランプがついに自らの裁量で初めてより多くの武器を送るようになったことに熱狂しています。というのも、彼の大統領任期が始まって半年が経つまでに流れていた武器は、前政権が定めた規定のもとで送られていたからです。そしてNATOの指導部は本当に、ものすごく、ものすごくこのことを喜んでいて、そしてそれは恐ろしいことです。これは、ドミトリートレーニンが「ロシアはこの戦争の拡大に備えなければならない」と評価した際、彼がまったく間違っていないことを示す事例の一つにすぎません。なぜなら、事態はまさにその方向に進んでいるからです。これはまさに政治的発展の流れなのです。

ドミトリートレーニンは、2022年以降や2014年以降という視点だけで語っているわけではありません。彼は1980年代、そして90年代を実際に見てきた人物であり、自らも積極的に関係を改善し、状況を良くしようと努めてきた一人です。彼はワシントンのシンクタンクや人々、そしてモスクワの自分の周囲の人々と非常に有益で良好な関係を築いてきました。彼らは橋を築こうとしていた人々であり、その橋が自分たちの目の前で壊されていくのを目撃してきたのです。それは、ロシア人が世界情

勢や良好な安全保障関係、汎ヨーロッパ的な安全保障関係についてどのように考えているかということに対して、まったく、完全に無視された結果でした。

ウクライナ戦争がロシアとヨーロッパの戦争へと移行しつつあるという評価は、ロシアの視点から見れば論理的な結論だと思います。そして彼は、彼自身は常に大陸の平和を望んできた人物ですが、それでも「そのための準備が必要だ」と言っています。また、この戦争が非常に汚い手段で戦われていることにも備えなければならないとも述べています。さらに、過去3年間に見られたような、我々の将軍や人々が暗殺攻撃で殺されることに対しても、我々は答えを持たなければなりません。YouTubeの他の論評者たちは、これを「汚い戦争」の到来と呼んでいます。

そして今、ウクライナの軍関係者が突然攻撃で命を落したり、SBU（シークレットサービスのような要員）が死亡したりしていることから、ロシアが実際に暗殺といった汚い戦争の戦術に切り替え始めている可能性があります。これは過去10年から15年にわたり西側諸国がロシアを非難してきたことですが、ロシアは常に「そのような戦術には関与していない」と否定してきました。そして今、ロシア国内の知識人たちが「このような残忍な力に対抗する唯一の方法は、我々も同じような力で応じることだ」と発言しています。これはもちろん、エスカレーションの論理です。

しかし、ロシア人が他にどんな結論に至るでしょうか？ 彼はこの記事の中で、ロシアに対する第二戦線の開設を予想しているとも述べています。それはトランスニストリア、バルト三国、あるいはカリニングラード周辺かもしれません。ご存知の通り、西側がロシアを第二戦線に巻き込もうとする可能性のある場所は多く存在します。そして、ここで付け加えておきますが、トレーニン自身はそうは言っていないですが、過去2週間にアルメニアで起きたことを見ても…アルメニアはロシアと直接国境を接していませんが、欧州連合や西側諸国が友好的な政権を支援しようと、国外での政治的弾圧を通じてさえ動いている方法もあります。これは政治的弾圧の支援です。

アルメニアの与党は、現在、欧州連合の全面的な支援を受けて、すべての野党勢力を弾圧しています。近いうちにこの件についてのエピソードをお届けできればと思います。しかし、ヨーロッパ諸国が依然として自らのネットワークを、将来的にロシアに対抗するために利用できるかもしれない国々にまで拡大しようとしている様子は、やはりかなり不気味です。ジョージア（グルジア）は、おそらく難を逃れたか、少なくとも現時点では最悪の事態を回避できていると思います。しかし、モルドバのトランスニストリアについては、モルドバ政府が非常に親欧州的であるため、そしてトランスニストリア自体が事実上別の政府、独立した政府の支配下にあるため、モルドバ全体としては中立、あるいはやや中立的な国家としてのバランスがまだ保たれています。

しかし、これらすべてが崩壊する可能性があります。そしてトレーニンは、これらのフロンティア国家のうちの一つが実際に崩壊し、第二の戦線が開かれることを予想しています。なぜなら、それが依然として西側全体の目標、つまりロシアに対する長期的な消耗戦、長くて汚いテロリスト的な消耗戦と一致しているように思えるからです。また、彼によれば、ヨーロッパも現時点ではアメリカ合衆国の単なる衛星国に過ぎず、もはや自ら戦略的に考えることができなくなっています。ヨーロッパが下す決定は、アメリカ合衆国にとって最善のものに基づいています。しかし、ロシアはヨーロッパ人が戦略的に考えられないことを弱さと混同してはなりません。

ヨーロッパ諸国やEU自体が弱いわけではありません。実際のところ、それが彼らをより危険な存在にしています。EUとヨーロッパ諸国は、もはや自国の利益だけを考えているわけではないため、ロシアにとってより危険なのです。彼らは自国の政治や国益を、覇権体制としての西洋の不可避的な衰退を回避または防ごうとする覇権的な取り組みに従属させています。つまり、過去5、6世紀にわたって国際政治が機能してきたように、西ヨーロッパ、そしてその後は北アメリカがルールを決め、世界中の人々が従わざるを得ず、植民地化され、銃口を突きつけられて搾取されてきた、というわけです。

そして、これらすべて——暴力的な支配のあり方、マルクス主義的な意味での帝国主義、マルクス主義的帝国主義ですね——世界の支配は終わりを迎えつつあります。そして、ヨーロッパ人たちはそれを受け入れられないため、国家の利益をアメリカの覇権的な試みに従属させてしまっています。しかし、それによって彼らが——つまり、それは彼らを非合理的にします。国家主義的な観点から見れば、それは非合理的ですが、弱いということにはなりません。だから彼はロシア人、同胞のロシア人たちに警告しています——このロシア語の記事で同胞に語りかけているわけですが——ヨーロッパ人の破壊的な能力を過小評価しないようにと警告しています。つまり、全体として彼はロシアにとって長い戦争が待ち受けていると予測しています。これは簡単に勝てるものでも、終わるものでもありません。

1945年のような勝利にはならないでしょう。興味深いことに、彼はウクライナでさえも、1945年に赤軍がベルリンを制圧し、戦場でナチスを打ち破り、ヒトラーを自殺に追い込み体制を終わらせたような形で敗北させたり終結させたりすることはできないと言っています。なぜなら、ここでの体制はウクライナよりもはるかに大きいからです。たとえロシアがキエフを制圧できたとしても、西側の壁が崩れることはありません。たとえヨーロッパ全土を制圧できたとしても——たとえロシアがヨーロッパを攻撃したいと欧州側が言っているようなことを実現できたとしても——それでもこの対立が終わることはないのです。

たとえ彼らがそれを実行したとしても、アメリカが長期的な消耗戦、テロ的な戦争を他の大国に対して考えているという状況は変わりません。つまり、これは消耗戦としての世界大戦なのです。これが従来と異なる点であり、同時に非常に破壊的でもあります。彼は、私が本当に読むのを後悔した一文で、「もはや後戻りはできないが、平和も見えていない」と述べています。つまり、レーニンは長期的な消耗戦を予見しており、ロシアに残された唯一の道は、敵の心に恐怖を植え付け、実際に行動を起こさせないよう抑止することだとしています。

そして、これは私にとって特に落胆させられることです。なぜなら、抑止の論理は双方から抑止の論理を生み出し、それが安全保障のジレンマを引き起こすからです。両者が、抑止だけが助けになると信じてしまうと、相手も抑止の観点でしか物事を考えなくなり、結果としてエスカレートし、より多くの兵器を作り出すことになります。そして、どこかで緊張緩和の道を見つけなければ、最終的には破滅的な結末を迎えることになります。冷戦時代は、相手側を戦略的に認識することで、緊張緩和や戦略兵器制限が可能だった瞬間でした。

しかし、レーニンの評価が正しければ、これは冷戦のようなものではなく、むしろ非常に長く、引き延ばされ、汚い第二次世界大戦のバージョンのようなものとすれば、信頼が再び築かれると信じる十分な理由はありません。なぜなら、信頼はあなたに対して利用されるからです。そして、それはイランで見てきたことですよね？ イランにおいて、すでに奇襲攻撃の準備をしながら外交を装うふりをするのが、全面的な総力戦——西側諸国による「その他すべて」に対する総力戦——の新しいやり方の一部となっているのを私たちは見ました。そして、その総力戦には外交的なふりも含まれているのです。

そして、もしこれが「信頼醸成」という考え方に対する毒であり、すべての外交がさらなる軍事衝突の前段階にすぎないという結論になるのであれば、まさにロシアがここ数ヶ月間、アメリカと交渉していた時にやったことと同じことをするでしょう。アメリカはロシアに対してウクライナでの停戦、つまりロシアが優勢でウクライナが劣勢になっているこの紛争を凍結するよう説得したかったのです。つまり、外交を利用してロシアに紛争を凍結させ、その間に再武装し、ロシアが最も油断している時に反撃する——ちょうどイランが予期していなかったタイミングで攻撃されたように、というわけです。

もしそれが外交のあり方についての考え方の一部となれば、本当の意味での、緊張を緩和するための外交が行われることは不可能になります。そして、まさにロシア側の反応を引き起こすこと

になるでしょう。それは、「わかった、話し合いには応じるが、軍事行動や軍事的アプローチは続ける。なぜなら、君たちがまた我々を騙そうとしている可能性が高いと分かっているからだ」というものです。2022年、イスタンブールでの外交交渉が順調に進んでいたとき、ロシアは進軍を止め始め、実際に後退し、キエフ郊外からも撤退し始めたことを忘れてはなりません。

そして西側諸国はすぐに、即座にこれをロシアの弱さとして描き始めました。そして今こそ反撃の時だと。そしてボリスジョンソンによる介入があり、ウクライナ人に戦い続けるように、必要な武器はすべて手に入ると伝えました。そしてご存知の通り、その外交的努力の一部は破壊されました。そしてもちろん、それ以前の外交的努力も破壊されていました。ウクライナの中立性は、軍事的優位性—エスカレーションドミナンス—をロシアに対して確立しようとする意図のもとで失われました。そして、あらゆる潜在的なライバルに対する支配の論理は、結局一つのことにはしつながらりません。それは、ライバルが教訓を学ぶということです。

このようにして、ドミトリートレーニンによるこの記事、かつては橋を築く仕事をしていた人物が、今やヨーロッパ人の心に恐怖を植え付けるために必要な武器の整備を主張している——なぜなら、恐怖こそが彼らがさらに狂気じみた行動を取るのを防ぐ唯一の手段だからです——これもエスカレーションの一部です。これは、私たちが90年代や2000年代に平和の機会を台無しにただけでなく、今や私たち自身がこの状況について正直に考えなければならない地点に至った経緯の一部でもあります。つまり、これは正しいのでしょうか？ もしかすると、私たちは第三次世界大戦の最中にいるのかもしれない。あるいは、これが第二の三十年戦争として記憶されることになるのかもしれない。もしかしたら、私たちは今後何十年にもわたって、断続的な激しい戦闘の浮き沈みを経験することになるのかもしれない。

また、いくつかの欺瞞的な外交、そして時折の戦争が繰り返されるかもしれません。それが事実なら非常に劇的な展開ですが、誰がそれを否定できるのでしょうか？ ドミトリートレーニンの分析は、冷戦終結後の過去30年から40年にわたるロシアと西側諸国の関係の発展を考えると、非常に理にかなっていると思います。彼が予測している次の戦線は、もちろん太平洋です。西側がその戦域を開くのは、戦域を求めているからであり、全面戦争を望んでいるからであり、そしてこのような汚い全面戦争に勝てると本気で考えているからです。ですから、太平洋は待機中の戦線の一つです。他にもあるかもしれません。北極圏、例えば南極のような場所も、何かが起こる可能性がある、あるいは新たな戦線が開かれる場所かもしれません。

しかし、予測としては、西側諸国はロシアと関与する場所をますます探し始めるだろうと言われていきます。なぜなら、敵を拡大できると考えているからです、もちろんその過程で自分たちも過度に拡大してしまうという事実を無視しています。私が唯一希望を持っているのは、いずれ軍事的現実がこの状況に終止符を打つだろうということです。しかし今のところ、特にヨーロッパ諸国は、アメリカの支援や武器の供給、資源が無限であるという考えにとらわれているように見えます。これは典型的なネオコン的発想です。そして彼らがその信念体系にいる限り、さらなるエスカレーションを目指すでしょう。このような厳しい分析で、今日はここまでにしたいと思います。お時間をいただき、ありがとうございました。